

## Nコン 文化庁と食違うマスクの解釈

第89回NHK全国学校音楽コンクール・全国コンクールがNHKホールで始まりました。北海道から九州・沖縄まで11ブロックの代表が練習の成果を披露しあいます。

- ▣ 高等学校の部 10月8日(土)  
〔結果〕**金賞 大妻中野高校** (関東甲信越)  
銀賞 豊島岡女子学園高校 (〃)  
銅賞 福島県立会津高校 (東北)  
〃 福島県立安積黎明高校 (〃)

- ▣ 小学校の部 10月9日(日)  
▣ 中学校の部 10月10日(月・祝)

10月2日NHK・Eテレで放送された「Nコン関東甲信越ブロックコンクール」のハイライト番組を視聴した人から、子供らがマスクで合唱する姿に違和感を覚えたとする声が、SNSで続出していると問題になっています。

歌いながらずり落ちるマスクを何度も直す姿が、歌いにくく辛そうに見えるということなのです。一般の方にそう見えるのは当然といえば当然ですが、合唱関係者はコロナ禍が始まって以来ずっとマスク着用で歌っており、悲しいかな慣れていきます。

### Nコンのステージ配置とマスクの規定

Nコンの参加規定では次のように定めています。

**ステージ配置**：原則、左右2m、前後2mの間隔を確保。感染防止のため、大きく移動しての歌唱、向かい合っの歌唱は禁止。手拍子、足踏みは、その場を動かなければOK。

**マスク**：不織布マスクを正しく着用すること。ステージでの歌唱時のほか、会場内でも常に不織布マスクを着用すること。マウスシールド、下部の開放が広いマスクなど、隙間のある形状のものは不可。原則、歌唱中にマスクを触るのは、ずれたマスクをもとの位置に戻すときに限る。

### マスク着用に関する解釈

NHK広報では「文科省ガイドラインなどを踏まえた」対策を立てたとしていますが、文化庁は「マスクを必ずして下さいとは通知していない」と反論し、NHKの認識が違っていると指摘しています。

NHKのいう「文科省ガイドラインなど」が具体的にどれを指すのかははっきりしませんが、官公庁の通知などはよほど科学的な裏付けがないかぎり明確に断言するような表現は避けるので、受け取り方次第で変わってしまいます。一般的には何か

問題が起きた場合の責任の所在を考えると、安全サイドに傾いた判断となりがちです。

NHKの規定に違和感を感じる人が多かった理由には、学校紹介の集合写真では、子供らはマスクなしでピースなどのポーズを取っていたにも関わらず、ステージ上は全員が白いマスクを着けて歌っていたというぐはぐが問題視されたものと思います。文化庁のいうガイドラインは、今年4月1日に発行された改訂版「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～(2022.4.1 Ver.8)」を指しています。

ここでは、「合唱をする際には、マスクを原則着用」とし、その上でマスク着用でも、最低1m、できるだけ2m開けるように」とありますが、文化庁では、その適用については、「各地域の感染レベルに応じて、マスクを推奨しているが、一定の距離を取っていればよいとしており、マスクを必ず着用することとは通知していない。マスク着用について、ガイドラインのせいにはされるのは困る。マスク着用を必須としているならば、認識が古いのではないか」としているようです。

### マスクがずれない工夫！

今日の高校の部の演奏をすべて視聴したところ、マスクは不織布で統一されていましたが、形状や付け方は学校や生徒によってさまざまでした。

ずり落ちるマスクを持ち上げる動作は、演奏に集中できないはずで、聴いている方も気になってしまいます。実際の演奏でよくずり落ちていたのは上の平面型でした。下の立体型は鼻にフィットしやすいのではないかと思います。しかし立体型でもずり落ちる人もいましたが、おそらくゴムが緩くてそもそもフィットしていないと思われる。

マスクのずれ防止は、以前『おんがく広場』第126号(2021年2月2日)でお知らせしたようにテープ絆創膏でちょっと止めるだけで抜群の効果を発揮します。

●テープ絆創膏の粘着面を外側にして輪にし、それをマスク内側中央の鼻に当たる部分に貼るだけでしっかり密着し、例えばゴムを耳に掛けなくても落ちません。絆創膏は肌に優しい素材でできていますので、付けていても違和感がありませんし、何より演奏中にマスクの存在を忘れていられるメリットがあります。

